

[果樹部門]

8. 「シャインマスカット」の簡易被覆栽培での新梢の摘心位置

[要約]

満開前の新梢を着房節から6節程度で摘心すると、樹冠全体の葉面積が十分確保できるとともに夏期の副梢の再発生を抑制できる。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 果樹研究室

[連絡先] 電話086-955-0276

[分類] 技術

[背景・ねらい]

新梢先端を棚下に下げて管理する「シャインマスカット」の簡易被覆栽培において、満開前に新梢を摘心する際、高品質な果実生産に必要な葉面積（葉面積指数2.5程度）を確保し、かつ管理に手間がかかる無駄な副梢の再発生を抑制できる新梢の摘心位置を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 摘心位置が房先4節では、新梢摘心後に再発生した副梢数が多く、摘心位置が房先6節から8節では、新梢摘心後に再発生した副梢数は少ない。（図1）。
2. 摘心位置が房先6節から8節で必要な葉面積を確保できる。しかし8節では新梢が長くなり、再発生した副梢が地面に達して果房管理や薬剤散布等の作業性が低下するが、6節では適度な長さになる（表1、図2）。
3. 摘心位置の違いで、果粒肥大や糖度等の果実品質に大きな差は認められない（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本成果は、樹勢が中庸～強勢な樹に適用する。
2. 樹勢が弱く新梢伸長が劣る場合は、摘心位置を1～2節長くし葉数確保を優先する。
3. 簡易被覆栽培では10a当たり新梢数4,500本を標準とする。

[具体的データ]

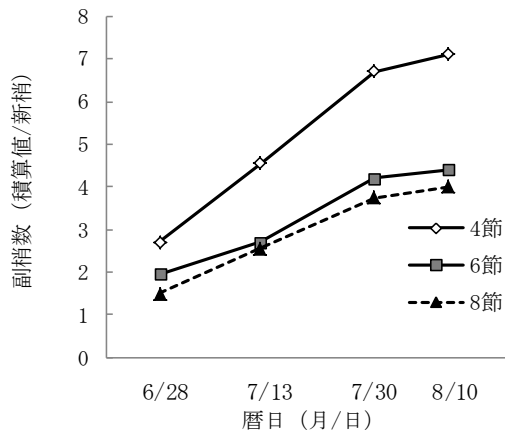


図1 摘心位置の違いが副梢発生数に及ぼす影響

図2 圃場の様子 (左:房先8節 右:房先6節)

注) 各調査日ごとに全副梢を切除し、数値は再発生した副梢数の積算値を示す

表1 摘心位置の違いがブドウ「シャインマスカット」の新梢成長および葉果比に及ぼす影響

処理区	枝長 (cm)	葉面積 (cm ²)			LAI ^z	葉果比 (m ² /kg)
		本葉	副梢葉	合計		
房先4節	83 c	2,579 c	1,904 b	4,483 c	2.0	0.9
房先6節	119 b	3,527 b	2,362 a	5,889 b	2.7	1.2
房先8節	157 a	4,385 a	2,183 ab	6,568 a	3.0	1.3
有意性 ^y	*	*	*	*	-	-

^z 各処理区の新梢が樹冠全体を覆った場合の推定値 (枝数4500本/10a)

^y Tukey検定により*は異なる英文字を付した平均値間に有意差あり, nsは有意差なし (P<0.05)

表2 摘心位置の違いがブドウ「シャインマスカット」の果実品質に及ぼす影響

処理区	果房重 (g)	果粒重 (g)	糖度 (°Brix)	酸含量 (g・果汁100ml ⁻¹)
房先4節	751	18.1	20.9 ab	0.20
房先6節	766	18.5	20.5 b	0.21
房先8節	755	18.3	20.9 a	0.21
有意性 ^z	ns	ns	*	ns

^z Tukey検定により*は異なる英文字を付した平均値間に有意差あり, nsは有意差なし (P<0.05)

[その他]

研究課題名：ブランド化を目指した「シャインマスカット」の高品質生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2010～2014年度

研究担当者：金澤 淳、安井淑彦

関連情報等：平成24年度試験研究主要成果、27-28